
研究発表要旨

(1) 中途障害者の生活の再編成に関する先行研究の検討

川崎医療福祉大学大学院医療福祉学専攻博士課程 ○大島 埴生
川崎医療福祉大学医療福祉学科 飯田 淳子、長崎 和則

【要 旨】

中途障害は、障害による身体的・精神的な変化のみならず、家庭、職場での役割や立ち位置が変わることによる社会的な変化を伴い、様々な面で生活の再編成を余儀なくされる。本発表では、中途障害者の生活の再編成に関する先行研究のレビューを行い、現在までに行われている議論を整理し、今後の課題を明確化する。検索サイト CiNii を用いて、検索ワードは「中途障害」、「生活」、「再編成」として文献検索を行った。その結果、合計635件(2017年8月13日現在)がヒットし、本研究の趣旨と合致する、74件を対象とした。先行研究は、(1)直接的な援助を想定した援助志向の研究と、(2)当事者の生活をありのままに理解しようとする、当事者の生活に焦点を当てた研究、(3)両者のいずれにも属さない、障害と社会の関係を問う社会モデルに基づく研究に大別された。さらに、援助志向の研究は医学モデルと生活モデルに基づく研究があった。医学モデルに

基づく研究は中途障害者の生活の再編成を個人の問題として、生活モデルに基づく研究は個人と環境を含めた問題として、そして社会モデルに基づく研究は社会の問題として捉えているものが多い。なお、当事者の生活に焦点を当てた研究は、インペアメントに伴う体験に関する研究と個人史に着目した研究があり、前者は短期的な生活を、後者は中長期的な人生を扱う傾向がある。これらの先行研究の課題としては、第一に一部の中途障害の研究で社会モデルの観点がほとんど採用されていない点、第二に研究対象者が豊富な語りをもつ人に限定されている点、第三に短期的な生活と中長期的な人生の関係性が捉えにくい点がある。今後はこれらの課題を踏まえ、語りの聴き取りのみならず、生活の観察も行うことにより、従来の研究の俎上に上がってこない人々の体験を、社会的状況と人生史の文脈のなかで考察し、中途障害者の生活の再編成過程を描写していくような研究が求められる。